

2016ぎふ平和のつどい

ニュース 第3号

2016年7月発行

「2016 ぎふ平和のつどい」

実行委員会 編集

(委員長:平方浩介)

事務局:「岐阜・九条の会」

(岐阜県教育会館3F 304号)

水島朝穂さんは、時代と向き合う“時のひと”です！

今年の平和のつどい講演者、水島朝穂さんは“時のひと”です。水島さんのホームページは「平和憲法のメッセージ」と名づけられ、冒頭に毎週更新されている「直言」という長文のコラムがあります。

ここでの報告や意見は、時局的な重要な課題をたいへん具体的に鋭く提起されています。新聞記事で紹介されているように、HPの閲覧者はたいへんな数です。この4月からドイツに滞在しておられますが、毎週かならず「直言」が送られています。

最新のテーマはイギリスのEU離脱問題です。その後半で日本の国民投票法の根本欠陥が、最低投票率の規定がないことだと、改めて指摘されています。今回のイギリスの国民投票は72%だが、それでも再投票すべきだという意見が多く出されているからです。

ともかく「直言」はおもしろい。ぜひ、閲覧して下さい。11月3日が楽しみです。(吉田千秋)

ネットの「直言」が千回を超えた憲法学者

ひと 2016

水島 朝穂さん



社会に対するちよつとした違和感や平和憲法、民主主義について、インターネット上で毎週1回公開している長文のエッセー「直言」が、昨年12月に千回を超えた。「時代を切り取る定時観測」と位置づけている。第1回は1997年1月3日付。43歳の時だった。ブログもツイッターもまだない時代。ネットに詳しい知人の勧めで、ベールの日本大使公邸入館事件について書いた。その後、ドイツで暮らした1年を含め1回も休まず更新している。米国の同時多発テロ、イラク戦争と自衛隊派遣、東日本大震災、そして昨年の安全保障関連法成立。「直言」は安保法の国会論戦で、野党議員の質問のネタにたびたび引用された。ホームページ(<http://www.asahiko.com>)の閲覧は普段は1日千〜2千人だが、法案審議がヤマ場を迎えた昨年8月は5千人を超えた。「現場にいたわる思考」を心がけ、自ら国会前にも足を運び若者に交じってマイクを握った。昨年9月19日の成立直後の「直言」では「廃止法案」をたたかち国会にと呼び掛けた。東京都府中市生まれ。早稲田大大学院を出て札幌学院大助教授として6年間、北広島市に住んだ。20歳の時に1カ月放浪した道内は「第2の故郷」という。広島大助教授を経て、96年から早大教授。10年後の1500回へ向けて今週も直言する。「平和憲法と立憲主義を守るために、したたかに、しなやかに闘い続ける」。62歳。(関口裕七)

今年の群読“<きみ>と<わたし>”も魅力いっぱい！



今年の市民参加ステージ群読は、「<きみ>と<わたし>」です。例年のように、浅井彰子さんが今評判の2つの本から企画・構成されました。すでに、浅井さんの指導によって、参加者たちの練習が始まっています。その内容は・

「世界でいちばん貧しい大統領」として知られるホセ・ムヒカさんからの《きみへ》のメッセージ。そして、《わたしの》訴える「やめて」。きみやわたしが幸せの意味、平和の尊さを伝えます。おしまいは「ビリーブ」の合唱。人類の愛と英知を「信じあえる」世界へ！ 参加希望の方は連絡下さい。058-231-9845(座馬)



戦争にしっかり向き合って・・・久保田弘信写真展”！

今年のフロント展示は、大垣市出身のフォトジャーナリスト久保田弘信さんの写真展「難民キャンプ村から」です。久保田さんは、長年、アフガニスタン、イラク、シリアの戦場で取材してこられました。今回は、久保田さんのご厚意で、何回も訪ねられた難民キャンプ村の写真を展示します。なお、久保田さんは先頃、15年間の集大成の記録映画『THE TRUTH 伝えきれなかった真実 2016』を完成され、各地で上映会が始まっています。岐阜でも開催できればよいですね。DVD(→右側に表紙写真)を注文できます。ぜひ公式ブログを閲覧して下さい！

